

「カラフルタウン」横瀬町における 賑わいづくり中心地づくりプロジェクト 地域まちづくり計画



令和5年3月
(令和7年9月更新)
横瀬町

取組の概要

まちづくりにおける課題

本町には現在約7,500人の方が暮らしていますが、将来的に人口は減少し続け、このままでは2040年には約5,000人、2060年には約2,600人まで人口が減少するとみられています(趨勢人口)。

また、町の中心であり、玄関口である横瀬駅周辺には、商店街等はなく、町の中心が希薄で賑わいにかけていることや、交通結節点として機能や、歩行者の安全性が不十分であるなどの都市としての課題もあります。

これらのことを踏まえ、子育て環境の充実や移住促進など、人口減少を抑制する施策を講じることで、計画人口として、2040年時点で約6,500人、2060年時点では約5,400人の人口規模を維持することを目指します。

また、中心市街地の機能向上、既存施設の再活用などによるまちなか再生や安全・安心のまちづくりのための防災機能の向上などに向けた取り組みを進めていきます。

まちづくりの方向性

オープン・アンド・フレンドリーを町の特徴として掲げ、観光などで訪れる交流人口や、地域や地域の人々と多様に関わる地域外の関係人口の増加を図ることで、町に賑わいをもたらします。また、駅やコミュニティスペースなど町の主要施設を活用し、中心地として活性化を図ります。

武甲山や横瀬川などの身近な自然と共生し、田園空間と居住地がほどよく調和しているまち、安全・安心で利便性の高い生活空間があり、温かい人の輪と賑わいが地域社会にあり、住む人・働く人・訪れる人が個性豊かに暮らせる、過ごせるウェルビーイングを実感できるまちを目指します。

他の計画における位置付け

- ・第6次横瀬町総合振興計画
- ・第3期横瀬町地方創生総合戦略
- ・横瀬町都市計画マスタープラン
- ・横瀬町人口ビジョン
- ・横瀬町地域公共交通アクションプラン

対象地域の位置及び区域

横瀬町全域

地図



地域の現況

人口・世帯の状況

本町全域の人口は、7,508人、世帯数は、3,312世帯で、1世帯人員は2.3人となっています。（令和7年7月1日現在）

人口推移は、平成7年(1995年)まで増加を続け、10,194人に達しましたが、以後は減少に転じています。

人口構成を3階層別人口でみると、令和6年(2024年)では、年少人口(0～14歳)が10.0%、生産年齢人口(15～64歳)が55.1%、老年人口(65歳以上)が35%であり、昭和45年(1970年)と比較して、年少人口が半分に減少し、老年人口が4倍以上に増え、急速に少子高齢化が進んでいます。

世帯数は、平成17年(2005年)まで増加を続けて3,128世帯に達しましたが、核家族化などの要因により、人口減少の進行に比べ緩やかな減少になっています。

全国的に人口減少期に突入したことから、本町においても、この傾向は今後も続くものと予想されます。

開発の状況

北部地域は、幹線道路である県道熊谷小川秩父線が地域の骨格を形成し、周辺地域には商業・サービス施設が立地しています。平坦地は高齢化等による後継者不足などにより、耕作放棄地が発生しており、一部は3,000㎡以下の造成により宅地分譲地となり、立地条件の良好な地区で自然的土地利用と都市的土地利用の混在化が見られます。

中央地域は、横瀬駅周辺に広がる市街地とその周辺地域で、用途地域の第一種住居地域が市街地に指定されています。国道299号や県道熊谷小川秩父線の沿道は、商業、業務、流通、サービス施設が立地しています。今後も、地域利便の促進に資するサービス施設等の立地誘導のため、沿道土地利用の適切な誘導を図ります。

南部地域は、都市計画区域の南東部に位置し、武甲山山麓に広がる地域で、北側に用途地域の工業地域が指定されています。本地域の1/4が工業地となっており、その他は住宅地、集落地、農地による田園地域が広がっています。

地域交通の状況

本町の公共交通は乗合輸送機関である鉄道・民間路線バス・コミュニティバス及び個別輸送機関であるタクシーにより構成されています。

鉄道は概ね特急が1時間1本、普通列車が1時間2本（ピーク時は3本）運行されています。

民間路線バスとしては町内を横断する横瀬線他、川東・川西地域と西武秩父駅間を結ぶ定峰線・三沢線があり、各路線とも概ね7時台～19時台に6～8回程度運行されています。

令和3年度より、特に自由に自動車を利用できない人（高齢者、学生等）の日常生活に必要な公共交通を実現するため、コミュニティバスを廃止し、AIを活用したデマンドタクシーの「のりあいブコーさん号」の運行を開始しました。今後も継続的な移動手段の確保が課題となっています。

課題に対応した基本的な方針として、「通院」「買い物」など日常生活に欠かせない外出に利用できる公共交通ネットワークの構築や地域で「守り」「育てる」持続可能なコミュニティ交通の実現、鉄道・バス・タクシーの連携による効率的で利用しやすい公共交通の実現を目指します。

地域資源

本町は、埼玉県の西部、秩父盆地の南東部に位置し、都心から70km圏、西武線で簡単にアクセスできる小さな美しい田舎の町です。秩父の名峰武甲山を背景に、寺坂棚田に代表されるのどかな里山の風景が広がる美しい環境や豊かな文化などを大切に育み続けている町です。

産業は、農林業が中心で、とりわけ果樹を主体とする観光農業が活発です。また、豊かな森林資源と雄大な自然景観、そして札所をはじめとする歴史的な文化遺産も多数有しており、首都近郊の観光地としても知られています。

まちづくりのコンセプトと事業全体の概要

まちづくりのコンセプト

本町では、最大の課題である人口減少を抑制するため、町内外の多くの人、企業との交流による関係人口の増加に向けて、官民が連携した「よこらぼ」などの様々なプロジェクトを進めています。

この築かれた人や企業の繋がりを積極的に活用し、目に見えるさらなる賑わい、遊休資産等の有効活用等によるまちの賑わいづくり、中心地づくりを推進していきます。

そして、本町と繋がった、またはこれから繋がる様々な人が町に滞留し、町の様々な人々と交流し、協働が生まれるリアルな場とその環境を整備し多様な人が多様な幸せ・ライフスタイルを実現できるまちづくり「Colorful Town(カラフルタウン)」を目指し、ウェルビーイングを感じられる町づくりを進めていきます。

推進体制

- (1)横瀬町空家対策協議会
横瀬町、町民、町議会議員、法務・不動産・建築・福祉・文化等に関する学識経験者、関係行政機関の職員等
- (2)秩父市・横瀬町デジタル田園都市推進協議会
横瀬町、秩父市、学識経験者、民間等
- (3)みんなでつくる日本一しあわせな町推進協議会
横瀬町、学識経験者、民間等

事業全体の概要

【コンパクト】町内遊休資産や観光拠点・資源等を活用した賑わい・中心地づくり

・エリア898※等中心地の各施設や、ウォーターパーク・シラヤマ、旧芦ヶ久保小学校等の町有資産や町内の遊休資産、駅やコミュニティスペース、空き家、観光拠点・資源等を有効活用し、町内外の企業や住民等の交流・活動拠点を整備する。

※誰でも自由に様々な用途で利用できるコミュニティ・イベントスペース。

【スマート】官民連携・DX を通じたスマートな賑わい・中心地づくり

・地域の活動拠点でのオフラインでの交流促進・官民連携等を通じた新たなコミュニティ形成に加え、「人に優しいテクノロジー」を積極的に活用し、オンラインでも交流・まちづくりに参加できる環境を構築する（利用者の環境に依存せず、簡単にアクセスが可能なクラウドサービス等を活用する）。

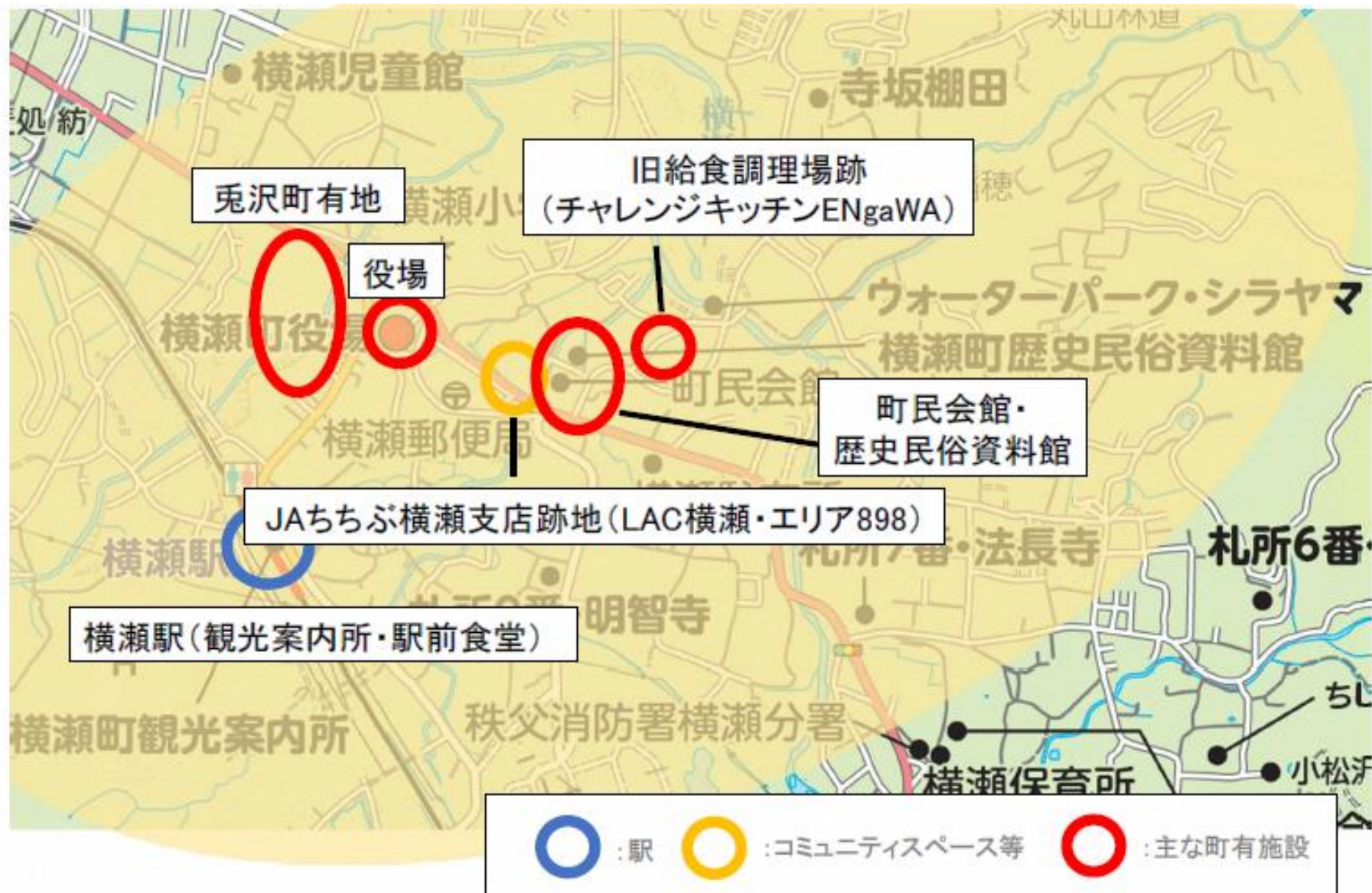
・中心地から町内へのウォーキングコースの観光道標等の整備とデジタル技術を活用した健康増進（日本一歩きたくなる町推進）

・EVやスマートモビリティなどを活用し、町内外の人々の誰もが利用できる地域交通を確保する。

【レジリエント】災害停電時の避難所の電源の確保

・安全安心に交流・活動拠点が利用できるよう、活動拠点等で再エネ、EVや蓄電池を活用するとともに、高気密・高断熱の脱炭素モデル住宅の建設を通じゼロカーボン実現と災害時の電源確保等、防災への備えを図りながら、賑わい・中心地づくりを進める。

コンパクトな町の中心地づくり



観光拠点・資源等の活用イメージ



【コンパクト】事業一覧

事業名	実施主体	事業内容	スケジュール						備考
			R7	R8	R9	R10	R11	R12以降	
空き地・空き家を活用した省エネ住宅施策	町 民間事業者	町主要部の空き地又は空き家の活用方法として町の実情、気候に応じたモデル住宅を整備し、お試し居住を行う。	詳細設計	モデル住宅整備					ふるさと創造資金を活用
兔沢町有地の活用	町 民間事業者	遊休資産を活用した町の中心地の整備。	設計等	拠点整備					国補助金活用予定
日本一歩きたくなる町推進・整備事業	町	観光資源を活用した日本一歩きたくなるまちづくりのため、ハイキングコースや道標等の環境を整備。	拠点整備			活用			国補助金活用予定
芦ヶ久保駅やその周辺の施設・町有遊休施設を活用した取組	町 民間事業者	芦ヶ久保駅やその周辺の遊休施設を活用した、観光客をはじめとした来訪者が滞在できるような、居心地のよい拠点を民間と連携し、整備。	拠点整備			活用			
町主要部に位置する遊休地・観光資産の有効活用	町	町主要部に位置する遊休地・観光資産を有効活用し、住民や来訪者が集う拠点として整備、活用する。	R4からチャレンジキッチンENgaWAの運用・活用推進中						ふるさと創造資金を活用
			ウォーターパーク・シラヤマ整備			運用			
横瀬駅前広場の交通結節点強化	町 民間事業者	町の玄関口である横瀬駅と電車・車・バス・歩行者・自転車の交通結節点として機能強化を図り、交通のスムーズ化や利便性強化を図る。	計画設計	拠点整備					国補助金活用予定

【スマート】事業一覧

事業名	実施主体	事業内容	スケジュール						備考
			R7	R8	R9	R10	R11	R12以降	
デジタル技術を活用したウォーキングコース整備	町	ICT技術の活用による中心地から町内へのウォーキングコース整備。	設置工事						国補助金を活用予定
			運用						
地域交通の整備 スマートモビリティEVシェア等	町 民間事業者	町内外の人々の誰もが利用できる地域交通を確保。	事業の調査・計画		実証実験	運用			国補助を活用予定
秩父市・横瀬町スマートモビリティによるエコタウン創造事業	町	災害時のドローン配送、AIによるデマンド交通、観光MaaSの3つのサービスを、災害時、地域交通施策、観光施策などに活用。	運用						デジタル田園都市国家構想推進交付金を活用
テレワーク拠点整備推進事業	町 民間事業者	町内の遊休地を活用したテレワーク拠点を整備するとともに、住民も利用できるコミュニティスペースとしても活用できる施設としても活用を推進。	拠点整備・活用推進						
ICT技術を活用した移動販売事業	民間事業者	ICT技術を活用した移動販売事業を実施。買い物物、他、公共料金の支払いや健康相談などをオンラインでできる事業を民間事業者と連携し実施・推進していく。	事業実施・活用推進						

【レジリエント】事業一覧

[illegible]

KPI

コンセプト	指標	基準値（調査時点）	最新値（調査時点）	目標値（達成年度）	備考
全体共通	観光入込客数（人）	672,000 （2023年度）	689,000 （2024年度）	700,000 （2027年度）	横瀬町総合振興計画
コンパクト	町有資産の新たな有効活用延べ件数	0 （2023年度）	1 （2024年度）	3 （2027年度）	横瀬町総合振興計画
スマート	移住・定住・交流等推進拠点施設（エリア898）の利用者数（人）	8,473 （2023年度）	11,877 （2024年度）	10,000 （2027年度）	横瀬町総合振興計画
スマート	ウォーキング関連事業の参加者数（人）	350 （2022年度） ※新規導入した保育園児を対象としたプログラムにより2023年度の参加者は大幅に増えたが、2024年度以降は園児数の大幅な減少により2023年度並みの参加者数は見込めないため、2022年度の実績値を基準値として設定する。	905 （2024年度）	500 （2027年度）	横瀬町総合振興計画
レジリエント	EV充放電器台数	1 （2019年度）	1 （2024年度）	2 （2025年度）	